

祝 辞

社団法人日本獣医師会が創立60周年の記念すべき日を迎えられましたことを、心からお慶び申し上げます。

貴会が、昭和23年に設立されて以来60年にわたり、公衆衛生の向上や畜産の振興、さらには動物愛護や福祉の増進といった分野で、積極的な活動を展開してこられたことに対しまして、敬意を表する次第であります。

個人的な話しになって恐縮ですが、私の父は陸軍獣医、シベリア抑留を経て終戦後は島根の山奥で牛、馬を相手に頑張っておりました。貴会のメンバーで県の役職もさせていただいていたように思います。私も小さいころ親父のオートバイの後ろに乗って、村じゅうの牛を一緒に見て回った憶えがあります。仕事の大変さと同時に、生命の大切さを胸に刻み込んだ経験でした。父親の葬式の「贈る言葉」の中で、ある同僚の獣医師さんが、「君が助けた牛たちに引張られた大白牛車に乗って天国に向かっているんだね」とおっしゃった時は、私も泣けました。獣医師会の皆様、父親が大変お世話になりました。ありがとうございます。

さて、環境行政に話を転じますと、近年、地球温暖化、生物多様性をはじめ地球規模での環境問題に関心が高まる一方で、少子高齢化やライフスタイルの変化を背景にペットを含む身近な動物との共生が重要な課題として注目されております。

この分野への関心の高まりを背景として、平成17年の「動物愛護管理法」の改正、本年6月の農林水産省との共管の「ペットフード安全法」の制定など、ここ数年の間に、動物に関する法律の制定・改正が相次いでいます。

「ペットフード安全法」については、規格・基準づくりに農林水産省と共同で着手しており、来年6月の法施行後には、特に情報の提供・共有などの分野で獣医師の皆様方の御協力を期待申し上げる次第です。

また、動物愛護管理の分野では、動物愛護管理法に基づく各種施策を推進し、特に、ペット等の身元証明としてマイクロチップの装着率を増加させるためには、獣医師の皆様方の御協力がますます重要になってきていると認識しております。

このほか、分野を異にしますが、野生生物に関しても、野生鳥獣における高病原性鳥インフルエンザを含む感染症対策や、希少野生生物の野生復帰を視野に入れた飼育下繁殖の取組、外来種の防除対策などについて、地域の獣医師の皆様方に多大なる御協力と御指導をいただいているところであります。

さらに、平成22年に生物多様性条約の第10回締約国会議（CBD/COP10）が愛知県名古屋市で開催されます。身近な動物や野生生物との共存、自然との共生の取組を世界に発信する格好の機会として、この面におきましても、貴会との連携を進めたいと存じます。

このように、貴会と環境省との関係は、動物や生物といったキーワードの下、年を重ねるごとに幅広く、また深くなってきております。

環境省といたしましては、国民からの高い関心を背景に、今後とも、動物と人間の共生に向けた各種取組を推進してまいります。獣医療の各分野の第一線で御活躍されている貴会及び会員各位の一層の御指導、御協力をお願い申し上げます。

最後に、貴会のますますの御発展と関係者各位の御活躍を祈念いたしまして、祝辞とさせていただきます。

環境大臣

齊藤 鉄夫

